

# 2023年3月期 第2四半期決算説明会



関東電化工業株式会社  
(東証プライム市場 4047)  
2022年11月22日

---

# 目次

---

I | 2023年3月期 第2四半期決算の概要

II | 業績見通し・今後の動向

III | 補足資料

## I | 2023年3月期 第2四半期決算の概要

---

## 第2四半期決算のポイント

---

- **売上高・各利益とも第2四半期としては過去最高**
- **販売は好調継続、精密化学品事業は販売数量の増加に加え、原燃料価格上昇の転嫁が進んだことで大幅な増収、基礎化学品事業も価格修正を実施**
- **費用面ではリチウム化合物・電力・タングステン・無水フッ酸などの原燃料価格が上昇**
- **半導体向け特殊ガスについて、第2四半期では市場環境の変化による影響は発生していないが、今後の動向に注意が必要**

# 損益計算書

(単位：億円)

	2021/9	2022/9	増減	増減率(%)
売上高	282	373	91	32.3
営業利益	44	65	21	48.9
経常利益	43	73	29	67.6
税金等調整前四半期純利益	43	71	28	65.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	30	51	21	71.2
1株当たり四半期純利益 (円)	52.8	90.4	37.6	

# 貸借対照表

(単位：億円)

	2022/3	2022/9	増減	増減率(%)
<b>資産</b>	<b>1,099</b>	<b>1,149</b>	<b>50</b>	<b>4.6</b>
現金及び預金	267	185	△82	△30.7
営業債権	180	202	22	12.2
棚卸資産	131	177	45	34.9
固定資産（有形+無形）	389	448	58	15.1
<b>負債</b>	<b>499</b>	<b>493</b>	<b>△6</b>	<b>△1.4</b>
有利子負債	309	290	△18	△6.1
営業債務	89	100	11	12.8
未払法人税等	26	21	△4	△16.9
<b>純資産</b>	<b>599</b>	<b>656</b>	<b>57</b>	<b>9.6</b>
自己資本比率(%)	53.0%	55.7%	2.7%	

# 基礎化学品事業部門

(単位：億円)

	2021/9	2022/9	増減
売上高	37	41	3
営業利益	△0.8	0.8	1.6

## 【売上高】

- ・か性ソーダ・・・販売数量は減少したが、価格修正効果により増収
- ・塩酸・・・販売数量は減少したが、価格修正効果により増収
- ・トリクロールエチレン・・・販売数量は減少したが、価格修正効果により増収
- ・パークロールエチレン・・・販売数量は減少したが、価格修正効果により増収

## 【営業利益】

- ・原燃料価格は上昇したが、価格修正効果により黒字転換

# 精密化学品事業部門

(単位：億円)

	2021/9	2022/9	増減
売上高	219	303	83
営業利益	39	60	20

## 【売上高】

- ・三フッ化窒素・・・販売数量の増加と価格修正効果により増収
- ・六フッ化タングステン・・・販売数量の増加により増収
- ・ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン・・・販売数量の増加により増収
- ・六フッ化リン酸リチウム・・・販売数量の増加と価格修正効果により増収

## 【営業利益】

- ・原燃料価格は上昇したが、増収効果により増益



## 鉄系・商事・設備事業部門（連結調整を含む）

（単位：億円）

	2021/9	2022/9	増減
売上高	24	28	3
営業利益	5	4	△0

### 【鉄系事業】

キャリアーの販売増加により増収増益

### 【商事事業】

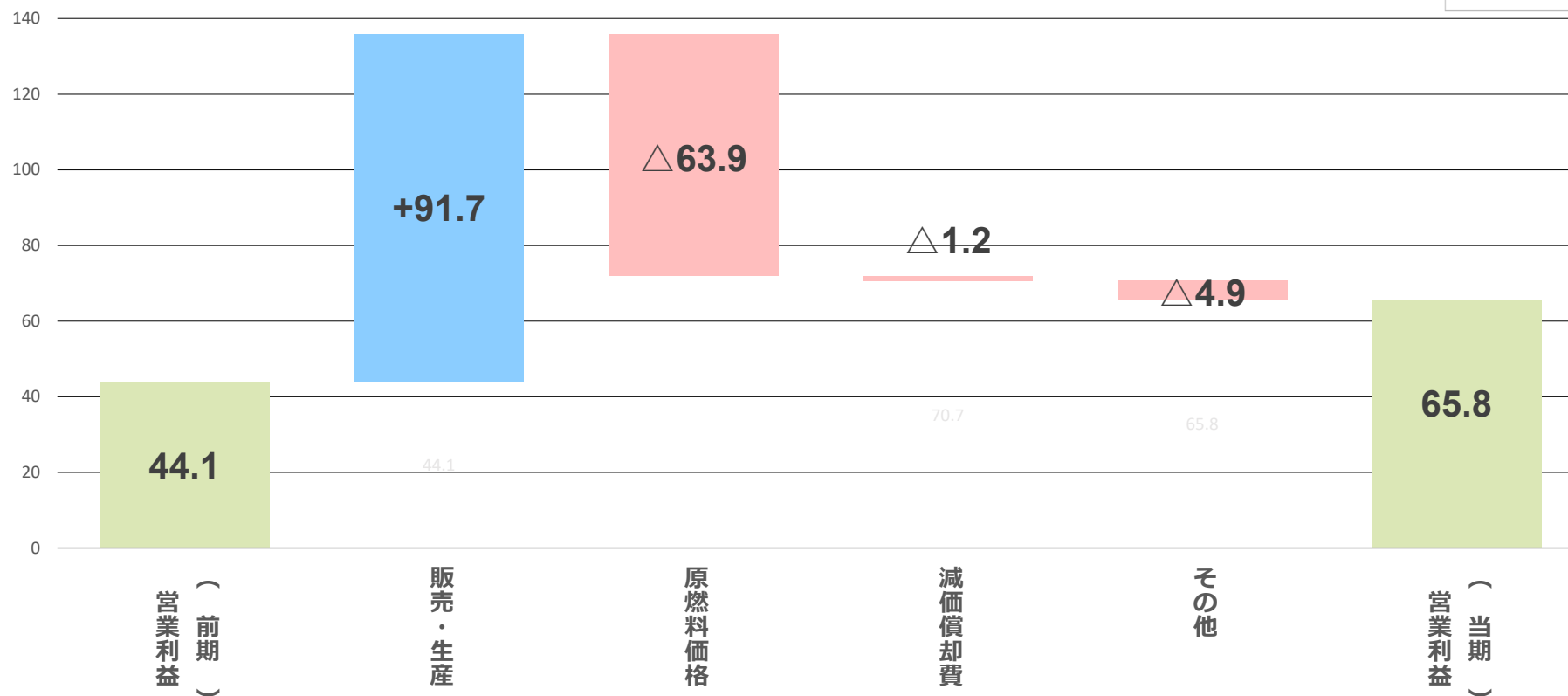
前年同期並み

### 【設備事業】

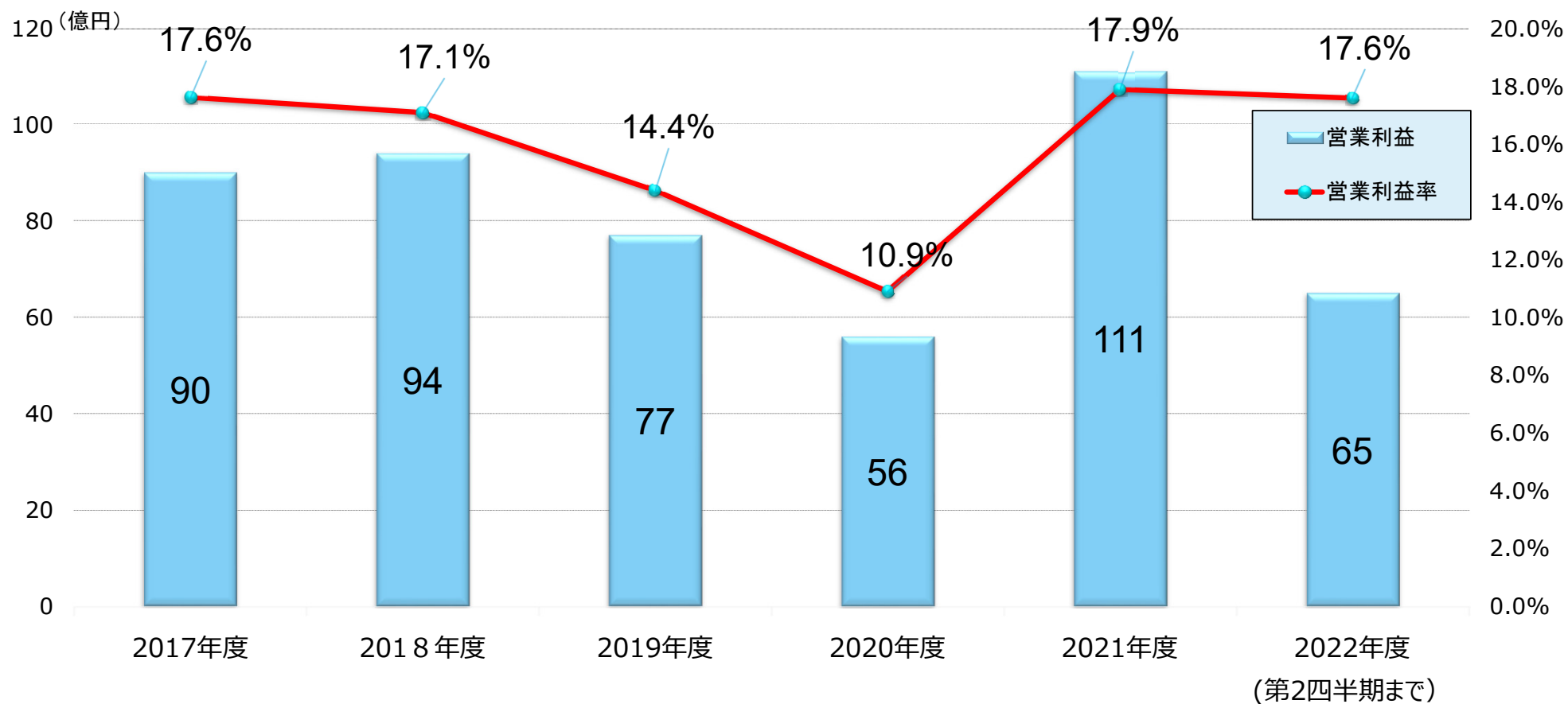
連結子会社である上備製作所の請負工事増加により増収増益

# 連結営業利益差異分析(2021/9 対 2022/9)

(単位：億円)

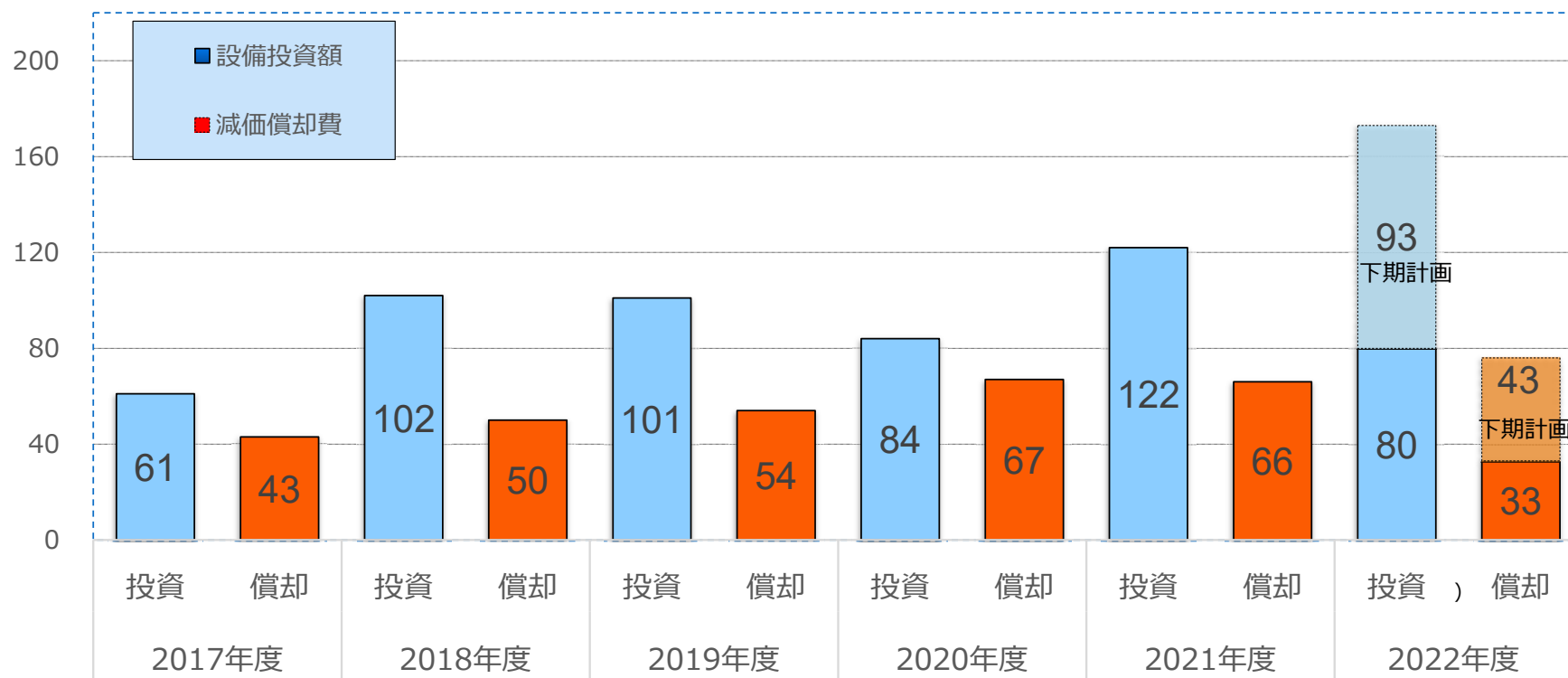


## 営業利益と営業利益率の推移（連結）



# 設備投資・減価償却費の推移（連結）

(億円)



# 関東電化グループ（連結子会社）

	資本金	出資 比率(%)	2022年上期 売上高(億円)	対前年同期比 (億円)	主要な事業内容
関電興産（株）	10百万円	100.0	49	11	化学工業薬品の販売および容器整備、 保険代理店
（株）上備製作所	120百万円	49.4	31	9	化学工業用設備の製作・加工・修理
森下弁柄工業（株）	27百万円	100.0	3	△0	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA（株）	3億ウォン	100.0	70	9	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份有限 公司	7百万NTドル	100.0	33	10	フッ素系製品の販売
関東電化ファインプロダク ツ韓国（株）	420億ウォン	100.0	14	3	フッ素系製品の製造・販売
宣城科地克科技有限公 司	50百万ドル	98.3	—	—	フッ素系製品の製造・販売
		<b>合計</b>	<b>203</b>	<b>43</b>	

# 事業セグメント

名 称		内 容
基礎化学品 事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノール等
精密化学品 事業	フッ素系製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タンゲストン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、モノフルオロメタン、硫化カルボニル、五フッ化ヨウ素、六フッ化リン酸リチウム、ホウフッ化リチウム等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料、鉄酸化物等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

## Ⅱ | 業績見通し・今後の動向

---

# セグメント別業績予想（連結）

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	2022/3 実績	2023/3 当初見込	2023/3 見直し後見込	2022/3 実績	2023/3 当初見込	2023/3 見直し後見込
<b>基礎</b>	79	81	89	△0	1	3
<b>精密</b>	490	619	675	100	97	110
<b>その他※</b>	53	60	59	11	11	10
<b>合計</b>	622	760	823	111	109	123
<b>設備投資費</b>	122	158	174	<b>【業績予想前提】</b> 為替レート：130円/\$  ※その他には、鉄系事業、商事事業、 設備事業および連結調整を含みます。		
<b>減価償却費</b>	66	88	77			
<b>研究開発費</b>	14	14	12			



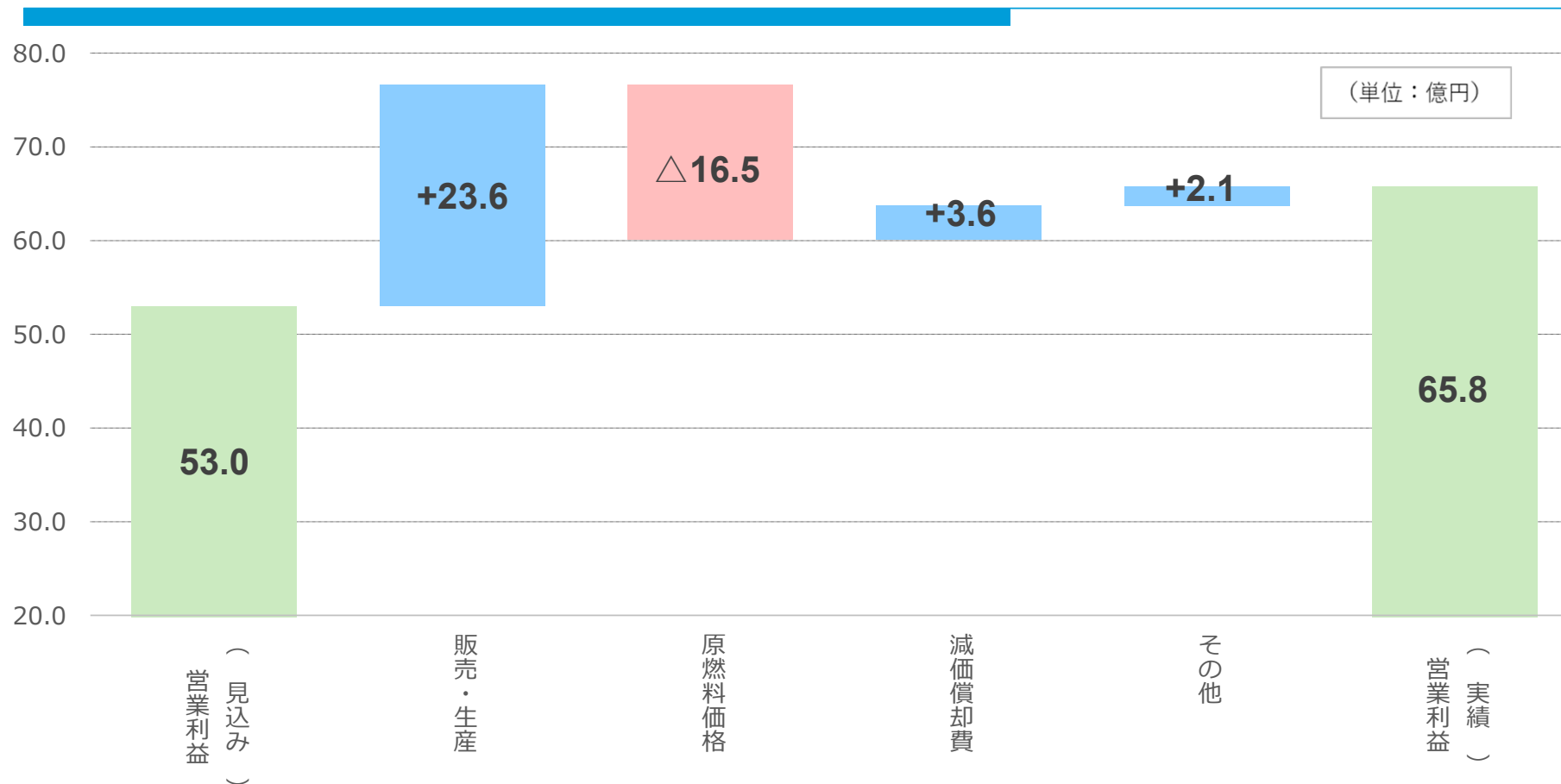
# セグメント別業績予想（連結） 上期予想と実績の比較

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	上期見込	上期実績	増減	上期見込	上期実績	増減
<b>基礎</b>	41	41	0	0	0	0
<b>精密</b>	290	303	13	46	60	14
<b>その他※</b>	31	28	△2	7	4	△2
<b>合計</b>	362	373	11	53	65	12

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

# 連結営業利益差異分析(上期当初見込 対 上期実績)



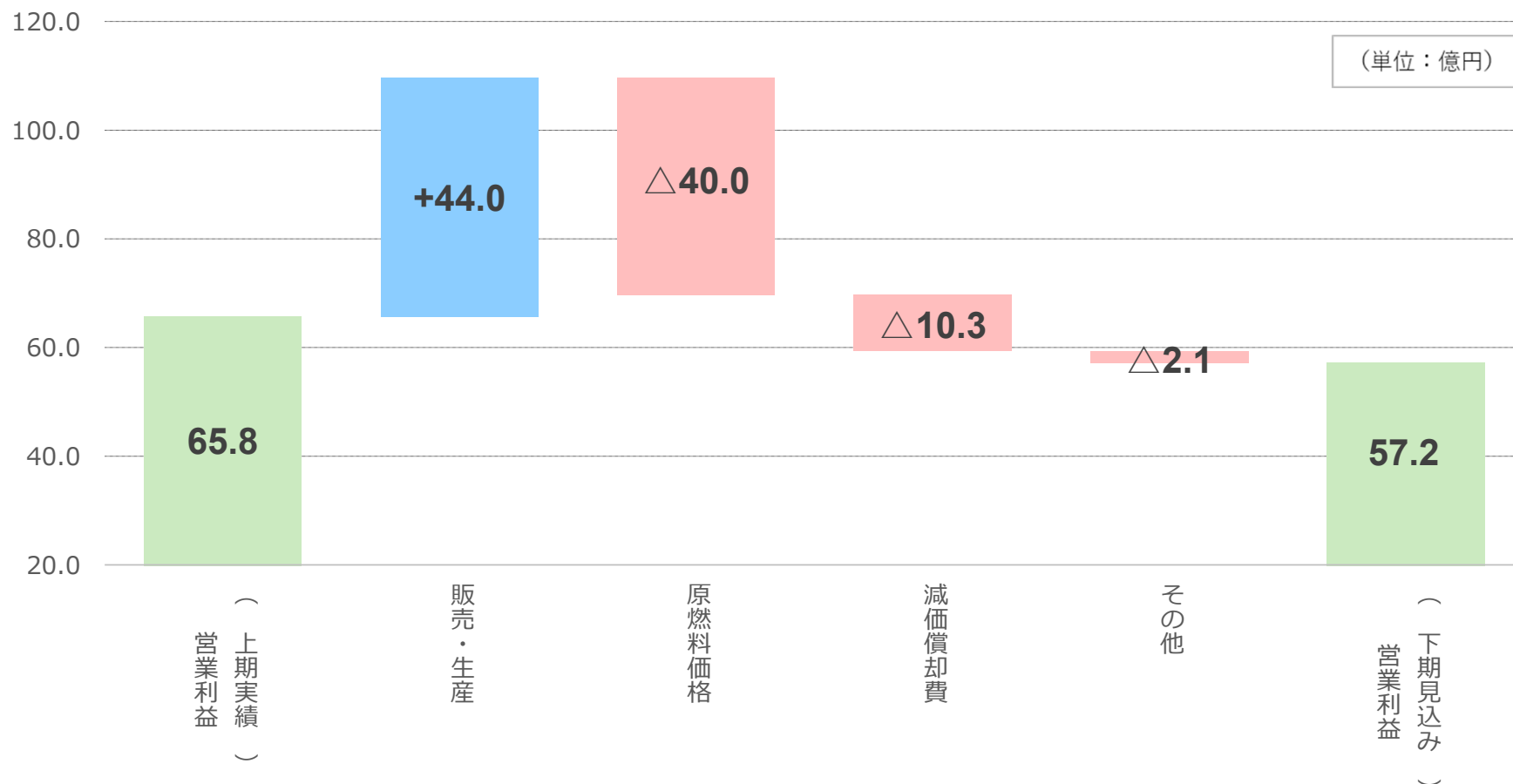
# セグメント別業績予想（連結） 上期下期比較

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	上期実績	下期見込	増減	上期実績	下期見込	増減
<b>基礎</b>	41	47	6	0	2	1
<b>精密</b>	303	371	68	60	49	△10
<b>その他※</b>	28	30	1	4	5	0
<b>合計</b>	373	449	76	65	57	△8
<b>設備投資費</b>	80	93	12			
<b>減価償却費</b>	33	43	10			
<b>研究開発費</b>	6	6	0			

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

# 連結営業利益差異分析(上期実績 対 下期見込)



# トピックス（主な設備投資の状況）

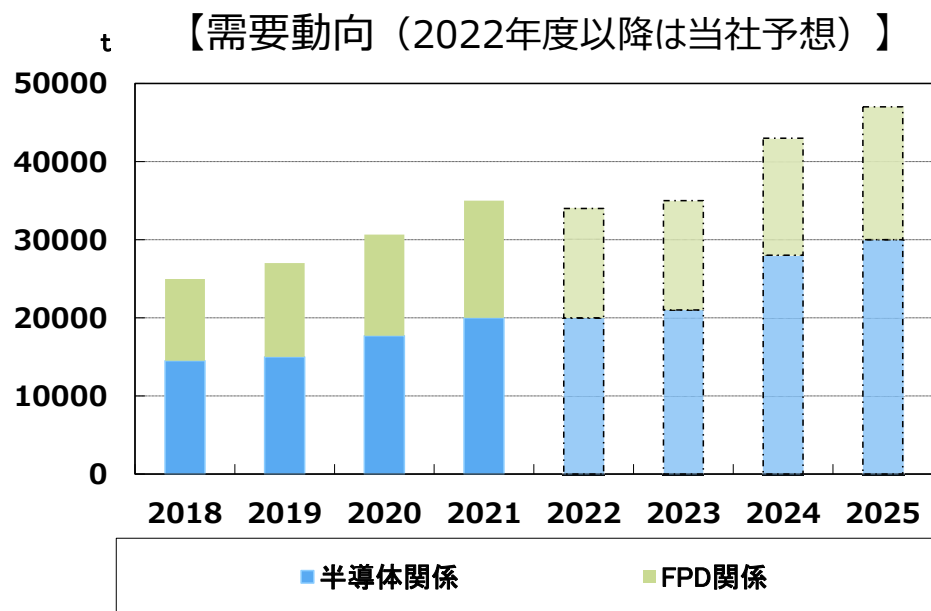
投資項目	投資内容	備考
ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン (C <sub>4</sub> F <sub>6</sub> )	260t/年 ⇒ 400t/年	・2022年4月設備完成、下期から出荷開始 ・追加投資を検討中
硫化カルボニル(COS)	80t/年 ⇒ 150t/年	・2022年6月設備完成、試運転中 ・生産能力（日本40t/年、韓国110t/年）
六フッ化リン酸リチウム (LiPF <sub>6</sub> )	5,400t/年 ⇒ 10,000t/年	・2023年秋頃完成予定
宣城科地克科技有限公司	I 期工事（フッ化アンモニウム） II 期工事（WF <sub>6</sub> 、C <sub>4</sub> F <sub>6</sub> 、CF <sub>4</sub> ）	・I 期工事：2023年3月完成予定 ・II 期工事：2023年末完成予定

### Ⅲ | 補足資料

---

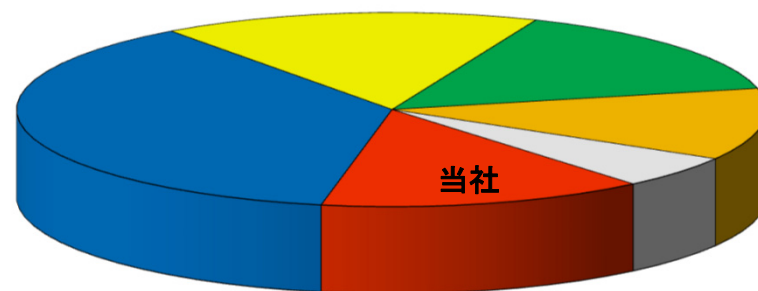
## – 主な製品の見通し – 三フッ化窒素 (NF<sub>3</sub>)

- 半導体・FPD製造プラズマCVD装置のチャンバークリーニングガス
- 製造能力 3,700t/年



### 【予想シェア】

- ・当社シェアは1割強
- ・大手半導体向けシェアは約2割

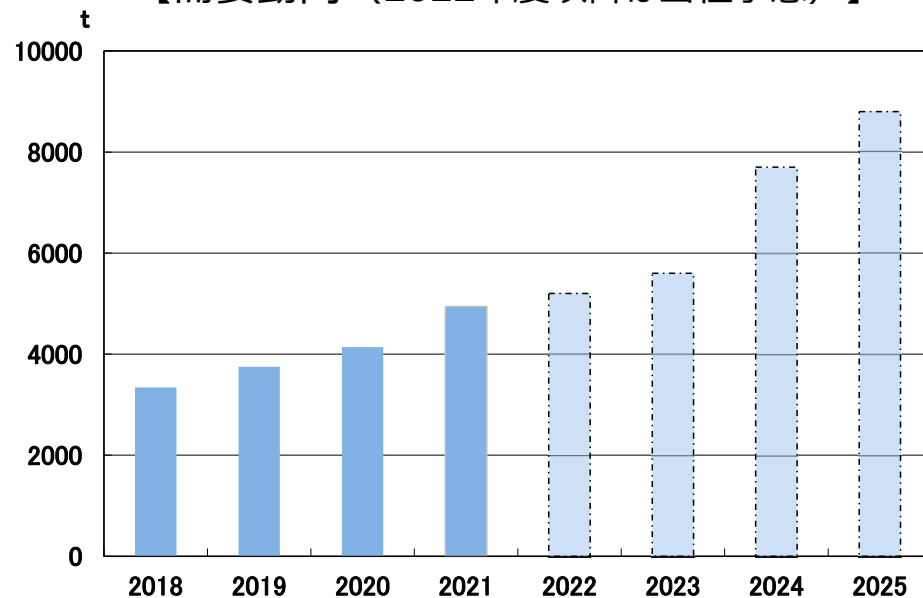


■ 当社 ■ A社 ■ B社 ■ C社 ■ D社 □ その他

## –主な製品の見通し– 六フッ化タンゲステン(WF<sub>6</sub>)

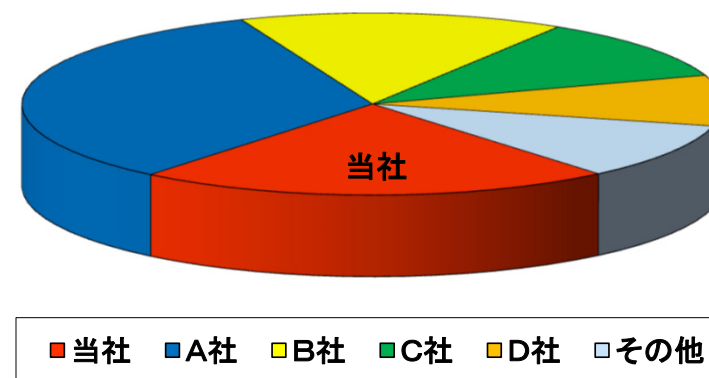
- 半導体用配線材料ガス。
- 製造能力720t/年（2016.11） ➡ 910t/年（2018.8） ➡ 1,400t/年（2019.10）

【需要動向（2022年度以降は当社予想）】



【予想シェア】

・当社シェアは3割弱

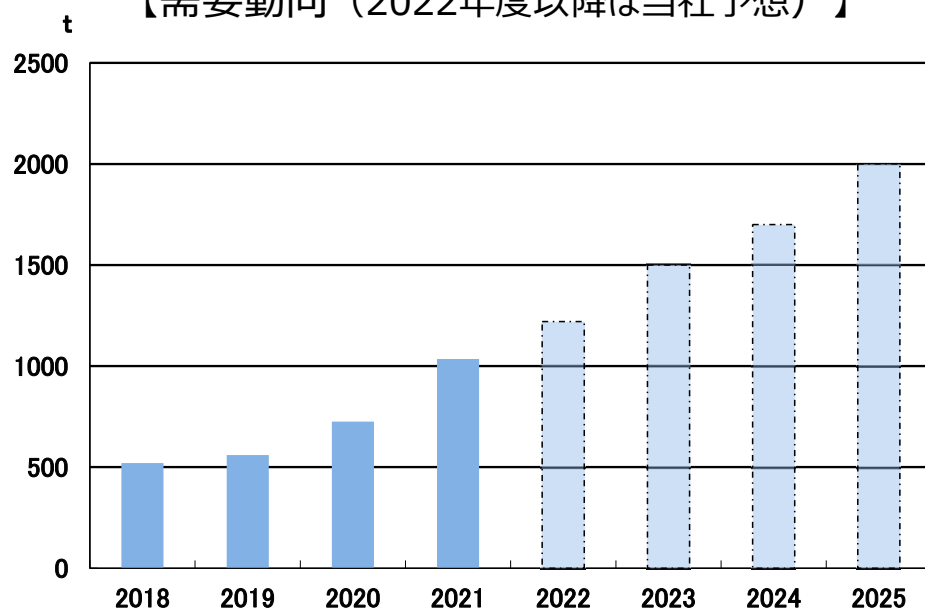




## - 主な製品の見通し - ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C<sub>4</sub>F<sub>6</sub>)

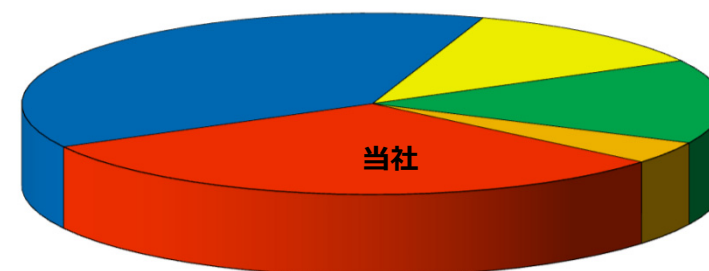
- 半導体用エッチングガス。
- 製造能力 125t/年 ➡ 160t/年 (2018.12) ➡ 260t/年 (2019.12) ➡ 400t/年(2022.4)

【需要動向 (2022年度以降は当社予想)】



【予想シェア】

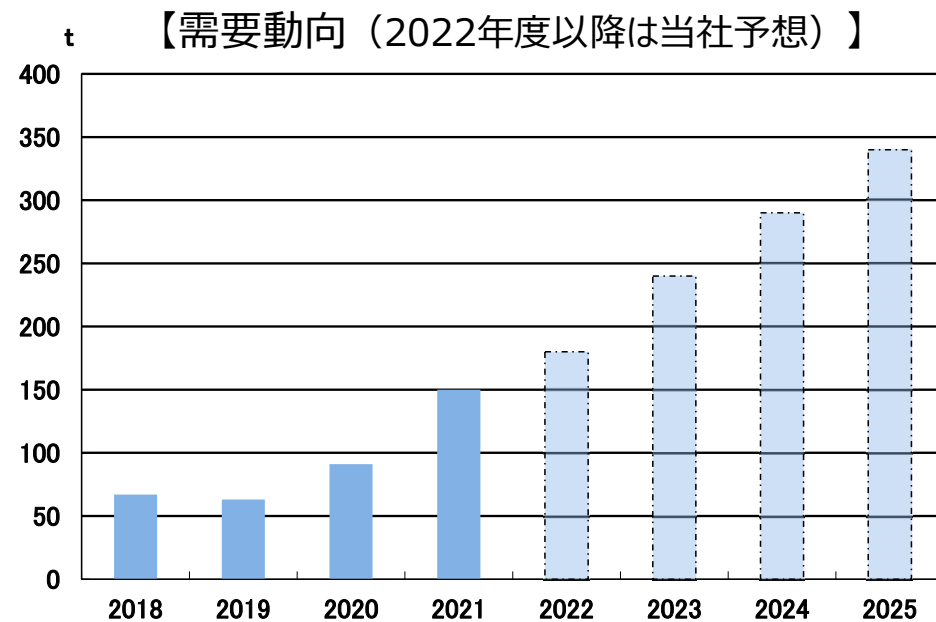
- ・当社シェアは約 3 割
- ・3D-NANDの多層化が進み、需要堅調



■ 当社 ■ A社 ■ B社 ■ C社 ■ その他

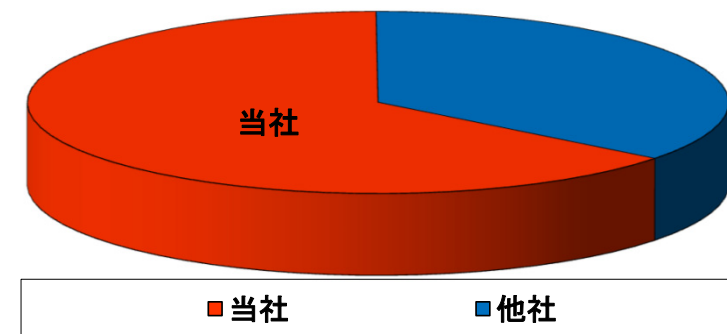
## – 主な製品の見通し – 硫化カルボニル(COS)

- 半導体用エッチングガス。
- 製造能力 40t/年 ➡ 80t/年 (2019.10) ➡ 150t/年 (2022.6)



### 【予想シェア】

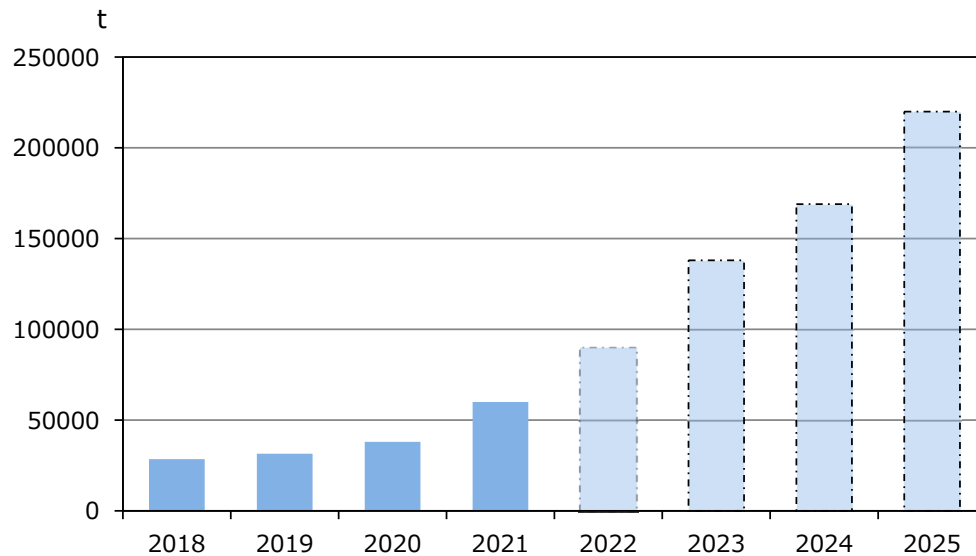
- ・当社シェアは6割以上
- ・3D-NANDの多層化が進み、需要堅調



# – 主な製品の見通し – 六フッ化リン酸リチウム (LiPF<sub>6</sub>)

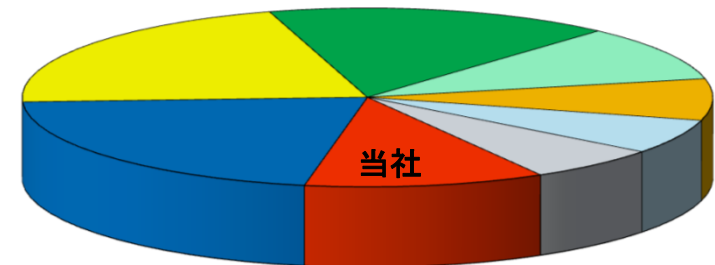
- リチウムイオン二次電池の材料である電解質
- E V等の車載向け需要が本格化
- 製造能力5,400 t/年 → 10,000t/年 (2023年予定)

【需要動向 (2022年度以降は予想)】



【予想シェア】

車載用電池市場において、  
日本7割、米国4割、欧州1割のシェア  
車載用は電池特性、安全性等の要求が強く  
高品質のLiPF<sub>6</sub>が必須



- 当社
- A社
- B社
- C社
- D社
- E社
- F社
- その他

## – 海外生産拠点について – 関東電化ファインプロダクツ韓国(株)

### □ 所在地

大韓民国忠清南道天安市

### □ 事業内容

半導体・FPD用特殊ガス類の製造・販売

### □ 生産品目

- ・硫化カルボニル(COS)
- ・四フッ化炭素(CF<sub>4</sub>)
- ・三フッ化塩素(CIF<sub>3</sub>)



# – 海外生産拠点について – 宣城科地克科技有限公司

## □ 所在地

中華人民共和国安徽省宣城市

## □ 事業内容

半導体・FPD用特殊ガス類の製造・販売

## □ 生産品目

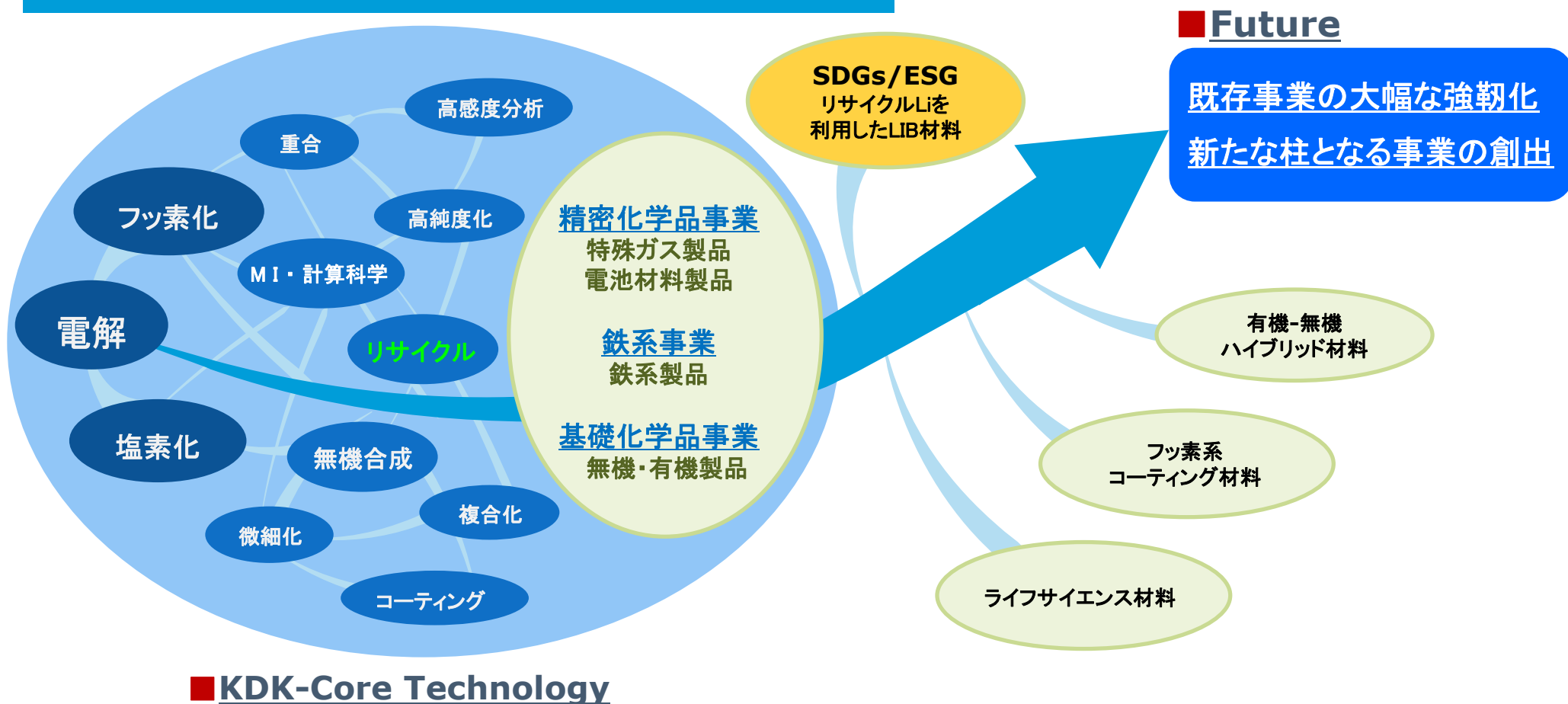
I 期工事\* : フッ化アンモニウム

II 期工事

- ・六フッ化タンゲステン(WF<sub>6</sub>)
- ・四フッ化炭素(CF<sub>4</sub>)
- ・ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C<sub>4</sub>F<sub>6</sub>)



# 当社技術と事業方向性



## 注意事項

---

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。